本物

稲美中学校
6月生徒指導部通信
文責　石井 洋之

生徒指導重点目標「生徒理解と自治」

させる指導から支える指導へ
自分たちで気づいて、律していく集団づくり

野外学習、修学旅行を大成功で終えました！

早いもので、新年度がスタートして2カ月が経ちました。野外学習と修学旅行など、泊を伴う行事が続きましたが、大きな生徒指導に関わる事案は発生しませんでした。集団生活を通して、ルールやマナーの大切さを理解し、集団としてのまとまりが見えたとても良い行事になりました。1年生、3年生のみなさん本当にお疲れさまでした。そして保護者の皆さま、ご協力本当にありがとうございました。

「いじる」「悪ふざけ」は「いじめ」につながります

いじめは人間として許されない行為です。どんな理由があったとしても、誰かをいじめてよいことにはなりません。しかし、いじめはいけないとわかっていても、起きることがあります。

普段ついつい冗談で相手に話しているつもりが、実は相手を傷つけていたということはありませんか？自分が言った言葉で、相手の顔は笑っているけれど、心は泣いているということはありませんか？先生自身も情けないですがそういう失敗をしてしまうときがあります。人によって許せる範囲は違います。また、冗談を言われて傷ついても、周りが笑ってしまったら笑ってごまかすことしかできない場合があります。やはり仲がよくても、そうでなくても、自分が言った言葉が相手を傷つけていないか確認したり、相手を思いやった発言がさらにできるようにみんなで努力していきましょう。そして、誰かが悲しむような冗談や笑いではなく、全員が楽しいと感じれる時間をたくさん積み重ねていきたいですね。

また、いじめの構造(加害者・被害者・傍観者・観衆)において、観衆や傍観者もまた、いじめを強化したり、助長することにつながります。いじめは、やはり稲美中学校全員の問題として今後も考えていきましょう。

＊1年生はいじめを題材とした学年道徳を学年主任の小濱先生が行いました⇒

服育　～なぜ制服はあるの～

みなさんは、新しい校則のもと、日々学校生活を元気に送っています。なぜ中学校には制服があるのだろう？と思ったことはありませんか。いろいろな考え方があると思いますが、服を着ることは、機能的な意味合いだけでなく、様々な意味や役割や意味をもっています。なかでも特に制服は、より多くの意味をもつ服装です。制服は元来、貧富の差がなく、同じ場所で同じものを多くの人が学んでいることを象徴する服装だったそうです。どのような人でも貧富や身分の差など関係なく、統一された身なりで学ぶことができる。学校という空間での一体感や愛校心などをつくりだす役割を果たしたのが制服でした。

現在では、もっと多様な意味を持っています。機能性やデザイン性、一方で式服としての意味も持ち合わせています。冠婚葬祭など、どんな場面でも制服は対応できます。きちんとした場所にふさわしい服なのです。だからこそ、普段からでも制服を着崩してしまうのは良くないと考えます。礼服を着ているという意識を持って、正しい服装を心がけて生活していきましょう。

生徒指導 保護者アンケートのお願い

先月は、困りごとアンケートを全校生対象に行いました。そこで、保護者の方々にも、子どもたちの頑張りでうれしかったことや、学校生活に関わる困りごと、生徒指導部通信を読んでの感想など、ご意見をいただきたいと考えています。今年度は、学校評価はもちろんのこと、生徒理解・家庭理解につなげるため、定期的にQRコードを使っての保護者アンケートを記名式にて実施していきます。「共育」の観点で、より良い学校生活をともに作っていけますよう、ご協力よろしくお願いいたします。